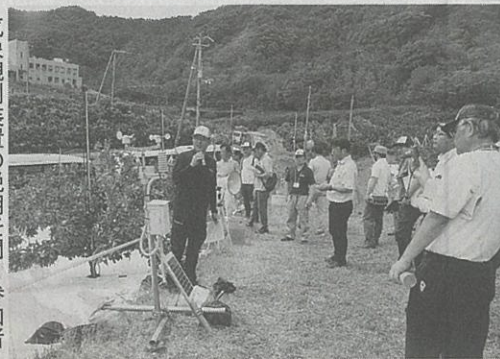


全国カンキツ研究大会

参加者ら園地視察

三重・JA伊勢管内 スマート農業学ぶ

三重県で開いた第63回全国カンキツ研究大会で参加者らは8月31日、JA伊勢管内の御浜町や熊野市で産地視察を行った。生産者の園地や県農業研究所を回り、園地に導入して



気象観測装置の説明を聞く参加者ら（8月31日、三重県御浜町で）

いるスマート農業機器や実証を進める技術を学んだ。

御浜町では、自動制御で散水するマイクロスプリングラーを導入する山本典子さん（49）の園地50㍏を視察した。マイクロスプリングラーは、気象観測装置と連動し、観測した温度や湿度などが一定基準になると自動で散水する仕組み。果皮表面の温度を下げて日焼け果の発生を防ぐ。参加者の質問に対し、県の担当者は「経

費は20万円ほど。10%くらいは日焼け果が減っている」と答えていた。

同町の同研究所紀南果樹研究室も視察。同研究室が開発した、マルチ栽培で木の水分ストレスを推定できる人工知能（AI）の説明を受けた。撮影した木を3段階でストレス状況を診断し、かん水の判断に役立てるもの。診断に基づいてかん水した極早生温州ミカン「みえ紀南1号」の実証園地も視察。県の担当者は「昨年産は熟練の農家のかん水より乾燥気味で、小玉で糖度の高い果実になった」と話した。

機械化のため大規模な園地整備がされた金山パイロットファーム（熊野市）では大型スピードスプレーヤー（SS）の実演などを見学した。

次回は2026年に和歌山県で開く。